

平成 29 年度

第 62 回 長野県中学校連合教科研究会

# 特別活動

I	研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	実践発表校一覧、指導者名・・・・・・・・・・・・・・・・	1
III	実践発表と協議内容・・・・・・・・・・・・・・・・	1～3
IV	本年度研究会の反省と来年度の方向・・・・・・・・	3～4
V	あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・	4

## I 研究テーマ

「生徒の自主的、実践的な態度の育成を図る特別活動の創造」

～かわりを深め、豊かな人間関係をはぐくむ特別活動～

## II 実践発表校一覧、指導者名

第1分科会 指導者 富山 哲矢 先生（北信教育事務所指導主事）

世話係 宮本 常德 先生（信州大学教育学部附属長野中学校）

### 【第1分科会】

発表順	地区	番号	校名	実践発表内容
1	長野上水内	2	櫻ヶ岡中	2学期のテーマを振り返り、3学期のテーマを考えよう：2年
2	長野上水内	32	附属長野中	変化への第一歩 ～どうする帰りの会～：2年
3	長野上水内	11	篠ノ井西中	私たちが目指す西中：2年
4	松本	25	附属松本中	『差別の芽』がある私は何をしていけばよいのか：1年
5	長野上水内	6	東北中	学級活動等で活用できる仲間作りゲーム等（午後）
				実践発表者5名、その他16名 計21名

## III 実践発表と協議内容

### 【分科会記録】

#### 【第1分科会】

#### 1 櫻ヶ岡中学校 小田切洋輔先生の実践発表

「『PDCAサイクル』を用いた話し合い活動での主体的・対話的な深い学び」

##### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・2年3学期、3年生になるために日常生活の振り返りを通して学級の課題を探るところから話し合い活動がスタートした。生徒会活動における「〇〇週間」などのときは比較的よくできるが、そうでないときに意識の低下が見られることが課題として挙げられた。チャイム着席の向上に着目し、その対策として「呼び掛け」がよいか「アラームを使う」がよいかについて議論した。
- ・「目指す3年生の姿」が生徒の中にどのように位置付けていたかが大事。「呼び掛け」にしても「アラームを使う」にしても、そこに心をもって取り組める生徒を少しずつ増やしていくことが、よりよい学級・学年づくりにつながっていくように感じる。
- ・何のためにこの話し合いをするのか。「目指す3年生の姿」をどれだけ生徒が意識していたか。そこがぶれなければどんな結果になってもよい方向に向かっていけると思う。
- ・話し合いをさせて終わってしまうケースが多い中で、振り返りや次の行動に向けた活動まで仕組まれているよい実践だと感じる。

##### (2) 指導者からのご指導

- ・「呼び掛け」と「アラーム」に焦点化したことで、どのグループも活発に話し合いが行われていた。しかし、どちらがよいのかの議論に終始してしまうグループも多かった。あるグループの話し合いの中で「3年生になるためにはどうなんだろう。」という発言を受けて、話し合いが変わっていった。「何のためにこの話し合いをするのか」を常に意識しながら話し合うことが大切である。

#### 2 信州大学教育学部附属長野中学校 宮本常德先生の実践発表

「自分の考えを明確にもち、友と折り合いを付けながら自主的・実践的に諸問題を解決しようと

## する生徒の育成」

### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・2年生のスタートで、自分たちの生活を振り返り、短学活の内容をよりよくしていきたいという願いから、短学活の項目を考える話し合いを行った。願いをキーワード化したり、項目ごとにその有効性を数値化したりし、班ごとに視点を明確にしなが、内容項目をどのように変更していくかについて議論した。
- ・短学活の中身について問題意識をもてる生徒が少ない現状がある。短学活を含め日常生活について意識できる取組や定期的な振り返りを仕組んでいくことが大事になるように感じる。
- ・意見を言えなくても、書かせることだけでも価値があるのではないか。その記述を司会者が拾い上げて発表を促すことで、少しずつ発言できる生徒が増えていくように思う。
- ・一人の生徒の学びを追った発表だったが、学級全体がどのような追究をしたのかを知りたい。話し合いにおいて、一人一人の思いを集約していくのがとても大変だと感じるの、そこにどのような手だてを仕組んでいるのかを共有したい。

### (2) 指導者からのご指導

- ・グラフ化や数値化などクラスの課題を焦点化していく過程が分かりやすい実践だった。短学活を充実させるために項目を削除するという結論に至ったが、それは生徒たちが互いの意見のよさに気づき、自分たちの願いに向かって合意形成していった姿であると言える。

## 3 篠ノ井西中学校 菊池浩成先生の実践発表

### 「友とかかわりあって高めあい、かかわることのよさを感じられる学習過程の工夫」

#### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・本年度の重点である「自主・自立」の力を高めるために、リーダー候補の生徒の育成や活用する力（書いて説明する力）の高まりをねらいとして学年で話し合いを行った。文化祭が終わった時期に「来年自分たちはどんな学校をつくっていくのか」について学級で話し合い、それを学年で共有しながら合意形成を図っていった。
- ・生徒にとって「やらされている活動」なのか「やるべき活動」なのか、その意識のもち方が大切だと感じる。必要感をもち、自分事として捉えられるような展開の仕組みが参考になった。
- ・本時では意見を出すことに留まってしまい、司会者の生徒は「何もできなかった」と振り返ったが、その経験が話し合いの進め方を上達させていくきっかけになるように感じる。
- ・生徒が話し合い活動を進められるようになるために、定期的・継続的にそういった場面を設け、聞き返す・かかわらせることを経験させることが大切。短学活もその場として活用できると思う。

#### (2) 指導者からのご指導

- ・活動の終わりに自分たちの活動のよさや課題を振り返る場面を設定している実践がよい。その中で、「自分たちのよさ」を感じさせることで、「やればできる」という充実感が生まれ、次の活動へ向けた主体性が育まれていくのではないかと思う。その取組を学年職員全体で計画していく姿勢が大切である。

## 4 信州大学教育学部附属松本中学校 荻原大輔先生の実践発表

### 「人権教育のねらいを、学校教育全領域・全教育活動の中に日常的に位置付け、子どもの実態に応じてより適切な指導を繰り返すことで、生徒自身も相手も大切にできる心を育む」

#### (1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・人権教育の中心となるべき場所は、生徒が日常生活を送っている「学級」であると考え、学級活動や短学活などを使って学習や指導を重ねていった。スポーツ界における差別を取り上げ、同じことが自分たちの生活の中にもあるのではないかという思いの芽生えから、友とのかかわり方や自分の心の育て方など、自分自身の生き方を考えていった。

- ・席替えなどのときに、心無い反応が起こることが多い。そこで「その反応はどうだったのか」と振り返ることができる生徒を育成するために、継続的な学習や指導を大切にしたい。
- ・日頃の活動の中に、人権教育や道徳教育につながるものがあるように思う。そこで適切な指導をしていくために、我々教師の人権感覚が問われる。私たちも研鑽を怠らないようにしたい。
- ・日常的な指導をしていくためには学級通信も有効な手だてのように感じる。それぞれの先生方がどのような学級通信を作成しているのかを共有したい。

(2) 指導者からのご指導

- ・一度立ち止まって自分自身を見つめる時間を大切にしていることが、新たな問いの発生や、次の学習への意欲につながっている。
- ・「話し合い」の学習は小学校3年生、4年生の国語の教科書にも載っている。その中で司会者の力量の高まりも大切にしている。小学校からの系統的な学習や、国語や他教科の授業の中に話し合いの時間を設け、全員が司会の立場を経験することによって、各教科・領域横断的に話し合いのスキルは高められるのではないかと感じる。

5 東北中学校 吉岡典彦先生の実践発表

「学級づくりに役立つ対人関係ゲーム」

(1) 発表されたこと、話し合われたこと

- ・対人関係ゲームの特徴は、体を動かしたり声を出したりする活動を通して、不安を抑制する効果があり、お互いにかかわり合いながら、仲を深めていくことに有効である。
- ・対人関係ゲームは目的をもたないと、「ただ遊ばせているだけ」と捉えられてしまう。何のためにこのゲームをやっているのかという目的を明確にして実践することが大事である。そのため、紹介されたゲームをそのまま学級に取り入れてもうまくいかないこともある。ある程度の理論を学習することも大事だが、学級の実態や実施する時期なども考慮しながら、アレンジして実践していくようにしたい。

文責：信州大学教育学部附属長野中学校 宮本 常徳

IV 本年度の反省と来年度の方向

項 目	内 容
○研究テーマについて	○よい ○具体的な目標が現われていて分かりやすかった。
○本年度の研究の成果と来年度の研究の方向について	○学級活動、生徒会活動、人権教育など、様々な内容について各学校での実践を討議することができた。 ○午後のワークショップでは、参加者全員で実際に対人関係ゲームを行い。実施時期や生徒の実態と照らし合わせながら、どのように行っていけばよいかを体験することができた。 ◇学級活動で用いたワークシートや、学級通信などを持ち寄り、授業という視点だけでなく、短学活などの視点からも特別活動の在り方を考えられる機会にしたい。 ◇小学校の先生にも参加していただいた。授業の仕組み方や対人関係ゲームについては、共通して学べる部分が多いので、声をかけていくようにしてもよいと感じる。

<p>○研究会当日の運営について（希望者による実践発表、分科会やワークショップの在り方 等）</p>	<p>○レポート発表だけでなく、ワークショップ形式の体験もよいというご意見を多数いただいた。</p> <p>○かつて参加したときにレポートの提出が大変だったが、今回の形式だと参加しやすい。</p> <p>◇午後をワークショップにした分、レポートを扱う時間や指導者の先生にご指導をいただく時間が、思いの外短くなってしまった。今年度の時間配分を参考に来年度の計画を立てていきたい。</p> <p>◇レポートの形式を検討し、短時間でもよいので全員が実践発表してもよいのではという意見もあった。</p>
<p>○研究会までの運営について（参加費、メール送付、Web ページからの申し込み 等）</p>	<p>○メール配信等、丁寧に対応していただきありがたかったというご意見を多数いただいた。</p> <p>◇研究会の開催について校内で周知されていない学校もあるようで、声を掛けられるまで知らなかったという若手の先生もいた。</p>
<p>○その他、運営全般にかかわって</p>	<p>○寒い中、外で案内をしてくれた生徒、準備をしていただいた先生方に感謝します。</p> <p>○イメージしていたよりよい雰囲気で行うことができました。</p>

## V あとがき

お忙しい時期に、県下各地からたくさんの先生方にお集まりいただき、生徒の学ぶ様子を基に指導の在り方について熱心に討議がなされ、多大な成果を収めることができました。

終日にわたって実践発表校の研究内容と今後の方向についての的確なご指導、ご助言をしてくださいました、指導者の富山哲矢先生に心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践について語り、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方に心から感謝申し上げます。

来年度も多くの先生方に参加いただき、特別活動教育の在り方について熱心な討議がなされることを願い、また、先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長 宮本 常德  
副委員長 荻原 大輔